

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年11月5日(金)

### 《正しく使うその知恵》

主の平和

今日の福音(ルカ 16・1-8)は難しく思わなかったでしょうか。なぜ不正な管理人をイエス様がほめたのでしょうか。これは世俗的な考え方ですよね。誰がみても不正といわれるこの管理人を『この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた。』と福音は伝えています。管理人のこのような生き方を、イエス様がほめたわけではありません。

今日の福音の要点だけを簡単に申し上げます。結局、この資本主義社会の論理によると、私がお金を儲けたら、誰かがお金を奪われることです。これが論理です。私がお腹を満たしたら、誰かがお腹を減らしています。ですからある意味で、私達は「正しくお金を、ものを、儲けました」という態度を捨てていただきたいのです。神様に感謝することは当然なことかも知れませんが、しかしよく考えてみると、私達は自分の力ではなく、誰かの支えによって、誰かの犠牲によって食べることが出来ています。地球の論理をみても同じです。国と国との関係をみても同じです。そして、村の中に住んでいる村人の生き方をみても同じです。

さあ、イエス様はこのようにおっしゃっています。結局、私達は皆、誰でも不正なところを持っています。その不正に儲けた全てのいいものを、「いいことに使いなさい」という意味です。“正しく使うその知恵”をイエス様がほめたわけです。悪い人かも知れないのですが、私によって、私のものによって誰かが救われたら、それはイエス様の御旨にかなうことと教えているのです。

この人生、私達は良心の呵責を感じる場合もあります。その時は必ず返さなければならない。良心の呵責を解決するために、何かいいことをしなければなりません。こういうことをイエス様は、今日の福音を通して教えているのではないかと自分勝手に解釈してみました。

さあ皆様、これから癒しのためにわたしが祈ります。目を閉じて下さい。心を開いてください。そして今、私の口から出されるこの祈りが、皆様、個人個人に対しての話だと、そして、皆様、個人個人が願う祈りだと思いながら、祈りに耳を傾けて下さい。

### 心の癒しの祈り -

主よ、私は今までの自分の生活の中で、さまざまな問題・困難・心配・失望・悲しみ・病気・苦しみ・誘惑・恐れ・不安・失敗・憎しみ・うらみ・けんか・暴力・拒絶・裏切り・さびしさ・疎外感などを、しばしば体験しました。そしてそのために、数々の心の傷をいただいています。どうか私が、全面的な健康をもち、喜びの中で生きることが出来るよう、そのすべての傷を癒して下さい。

イエス様、私の心の中にお入りになって、癒しが必要な私の過去の体験に触れて下さい。私よりも

あなたのほうが、私自身のことをよくご存知です。

ですから、私の心の奥深いところにあなたの愛を入れて下さい。傷つけられた子供である私を見出すあらゆるところで、その私を慰め、開放してくださいますように。

私が命を授かった瞬間までさかのぼって、私の先祖から伝えられた傷を取り除き、そのときから否定的な影響を与え続けている全てのことから、私を解放して下さい。母の胎内で形づくられた最中の私を祝福し、胎内にこもっているその間に受けた、全面的な健康に対する全ての妨げを取り除いてください。

妊娠中、夫婦としての愛に、もし何か欠けることがあったならば、その時の母の苦しみは、私の心にも何らかの響きを残したにちがひありません。親のどちらかあるいはふたりともが、胎内の私など「いなければよかった、産みたくない、あるいは育てたくない」という気持を感じていたなら、それも深い傷として心の中に残っているでしょう。もし、私がそのような傷をいただいているなら、それを取り除き、癒して下さい。

主よ、私が産まれたときに、あなたご自身がそこにいらっしゃって、ご自分の腕に抱いてくださったこと、さらに、この世に私を歓迎し「決して見捨てない」と約束なされたことを心から感謝いたします。

主よ、私の幼児時代をあなたの光で照らして、なかなか自由にさせてくれないわたしの記憶に触れて下さい。もし私が、より深い母親の愛を必要としているなら、その不足している愛を満たして下さい。主よ、ご自身お母様を送って下さい。主よ、私を抱きしめ、揺り動かし、私の母親からもらわなかった暖かさや慰めを与えて下さいますよう、マリアさまを送って下さい。

もし、子供である私から父親の愛が奪われていたなら、心から「お父さん(アッパ)」と言うことができ、確かに愛されていると感じ、確信することが出来ますよう、あなたの御父<sup>おんちち</sup>のところへ連れて行って下さい。私がつまずいて転ぶとしても、御父<sup>おんちち</sup>の愛によって支えられているという確信をもち、世の中の試練に直面することが出来るよう、新たな信頼や勇気を与えて下さい。

小さい時から私の両親のどちらか、あるいはふたりともが、仕事などのために私と一緒に時間をすごすことができず、したがって「私のことなど愛していないのだろう」と思わされることがあったならば、親の不在のためのその傷を癒して下さい。

特に悪意がなかったとしても、身近な人が何気なくしゃべった言葉のために、「拒絶されている」と私が思いこんでしまい、今でも傷として私の記憶の中に残っているものがあれば、その傷をも癒して下さい。主よ、昔言われたたった一言のため、「自分はどうしようもない人間で、愛されていないのだ…」と思い込んでしまうのは、大変辛いことです。主よ、これがもとで、自分を受け入れることを自分自身が出来なくなってしまいます。他人から傷つけられたので、自分自身をも、その人たちをも、ゆるすことが出来ません。

主よ、あなたに深く出会いたいのです。しかし、そのためにはまず、他の人と私との和解が必要で

す。そしてまた、そのために、私には、心の傷の癒しが必要です。どうか、私が意識している傷も、意識していない傷も、全て癒して下さいますように。

主よ、恐れを感じ、そのために自分の中にとじこもり、他の人と会わないよう壁をつくることによって出来た傷を癒して下さい。もし、さびしさ・疎外・人々から見捨てられたと感じていたなら、あなたの愛に満ちた癒しを通して、「私は、ひとりの人間として素晴らしい価値がある！」という認識を与えて下さい。

イエス様、私のからだ・精神・霊魂・私の全てをあなたに委ねます。私に全面的な健康をお与え下さい。主よ、ありがとうございました。 アーメン。

何故、この祈りの文章を選んだか申し上げますと、この世の中に居る私達は、私達より先に去った人々も、これから産まれる子供達も、しょうがなく傷の中で生きていきます。そして、その傷は必ず自分の性格に影響します。その傷によって、関わりが上手く出来るか出来ないかが決まります。その傷によって、お金を正しく見るか見られないかが決まります。その傷によって、祈りが上手く出来るか出来ないかが決まります。その傷によって、私達が正しい価値観を持つか持てないかが決まります。ですから、何よりも私達が求めなければならないことは、からだの健康ではありません。からだはいつか朽ち果ててしまいます。しかし私達が、永遠に生きる意味を生かすためには、心の癒し、内的な癒しが何によりも必要です。

ある人がよく笑って、ある人がよく泣いて、ある人がよく怒ったら、そこには必ず理由があります。神様しか癒せない傷があります。それを癒してもらうように求めなければいけないと私は思います。

皆様、今日のこの癒しのミサ、「私が神様に対しての強い信仰を持ち、出会いの心を保つことが出来るように、何事があっても全てをあなたに委ねます。強い心をお許し下さい。」という願いで続けましょう。

これから、病者の秘蹟を授けます。それから按手をいたします。

ありがとうございました。